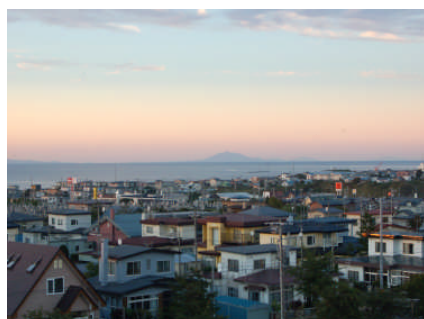


平成21-22年度 北海道根室西高等学校 「確かな学力を育む高校教育推進事業」研究集録

「北方領土問題など、郷土の歴史や文化への理解を深める指導方法の工夫改善」



北海道根室西高等学校「確かな学力を育む高校教育推進事業」プロジェクトチーム

北海道根室西高等学校

郵便番号 087-0025

所在地 北海道根室市西浜町4丁目1番地

電 話 0153-24-2901

F A X 0153-24-2961

はじめに

『発刊にあたって』

北海道根室西高等学校長 前田 豊



この研究集録は、本校が道教委の指定を受けてこの2年間に取り組んだ「確かな学力を育む高校教育推進事業」のまとめである。なお、この事業終了後も、地域の実態を踏まえ5年程度は研究実践を継続する予定である。

本校の喫緊の課題は、生徒の基礎学力の向上、基本的な生活習慣の確立であり、あわせて若い教職員集団の指導力の向上である。この指定事業は、課題解決の糸口となる絶好の機会であると考えている。しかし、「北方領土問題」というあまり大きな問題のため、指定を受けた時に脳裏を掠めたのは、江戸時代の蘭学者である杉田玄白が著した回想録『蘭学事始』の一節【「(前略)彼のターフルアナトミイの書に打向ヒしに、誠に艣・舵なき船の大海に乗出せしが如く、茫洋として寄るべきかたなく、ただあきれにあきれて居たるまでなり(後略)】である。これは、玄白が前野良沢らと医書『ターヘルアナトミア』を4年の歳月を費やして翻訳し『解体新書』として出版したその翻訳の苦心談である。当時の心境はこの一節と同様であった。

本校の研究テーマは「北方領土問題など、郷土の歴史や文化への理解を深める指導方法の工夫改善」であり、目指すところは北方領土学習を通して ①学び方を学ぶ ②プレゼンテーション能力 ③課題解決能力 ④学ぶ意欲 の育成である。一方、教員については研究活動を通じて指導力の向上を図ることである。

この取り組みの成果をあげるためには、「地歴・公民科」だけでなく、教職員全員の指定事業の趣旨に関する共通理解や研究への参画意欲の構築が不可欠であった。そのために校内にプロジェクトチームを結成し協働体制を確立、学校全体で北方領土学習を通じた「確かな学力」の育成を周知した。また他校(小・中・高)との連携、さらには行政(内閣府、外務省、北海道北方領土対策室、北方領土期成同盟等)や地域(北方領土教育者会議、北方領土学習研究会等)など関係機関との連携が必要であった。2回にわたる研究協議会では、公開授業、合評会、北方領土研究会の発表、行政等関係機関との協議、講演会、元島民・北方領土関連有識者との協議を行い、高等学校における北方領土学習の在り方を模索した。その結果、教員は意欲的に取り組み、生徒も興味関心を示し一定の成果を上げている。今後は学力等実態調査等での検証が必要である。

なお、この指定事業開始と同時期に、生徒からの要望で北方領土研究会が発足し、会員は関係機関からの要請に応え、道外での出前講座やキャラバン隊への派遣など地域との行動連携をすすめ活発に活動している。その成果は、「北方領土を考える」高校生弁論大会において平成21年度は優秀賞(北海道知事賞)、平成22年度は最優秀賞(外務大臣賞)受賞に表れている。さらに今月、北方領土返還要求運動推進功労者等として第15回内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)表彰を受賞している。

今回、指定事業に関しての報告書をまとめることができた。是非、皆様方からのご指導をいただければ幸いである。

終わりにあたり、この研究実践を支援していただいた、根室教育局をはじめとする北海道教育庁の指導主事の皆様、管内の学校関係者や関係機関の皆様に深く感謝申し上げます。特に、適切な指導・助言をしていただいたサポートチーム(十勝・オホーツク教育局指導主事)には重ねて深甚なる謝意を表す。

平成23年3月